

書評

チームマネジメント力を養うための一冊

篠田 道子(著)

〔評者〕 永坂 和子

社会医療法人財団新和会 八千代病院看護部長

『多職種連携を高める チームマネジメントの知識とスキル』

■質の高いチームを作るためにはチームマネジメントが求められる

医療・福祉サービスの臨床現場では、多職種連携やチーム医療という言葉をよく口にします。しかし、この言葉を理解しているつもりでも、意外に多職種連携やチームの作り方を系統的に学ぶ機会は少ないのが現実です。著者は大学の教授ではありますが、実際に臨床のフィールドを持ち活躍されてきました。その経験を生かし、『質の高いケアマネジメント』（中央法規出版）、『ナースのための退院調整——院内チームと地域連携のシステムづくり』（日本看護協会出版会）、『チームの連携力を高めるカンファレンスの進め方』（日本看護協会出版会）など、現場で役立つ著書を多数執筆されています。チームケアなどの専門分野では、鷹野和美・細田満和子・菊池和則氏らの著書がありますが、本書には、これらにない連携専門職を束ねるゼネラルマネジャーの必要性やチームを成長させる仕掛けなどの実践に役立つ記述が盛り込まれています。日ごろから「連携がうまくいかない」「今あるチームを見直し、レベルアップを図りたい」という方にとって、本書は、チームマネジメント力を養うための待望の書です。

■チームマネジメントを高める技術

本書では、チームマネジメントを高める技術として、カンファレンス、ファシリテーションスキル、コンフリクトマネジメント、参加型事例検討、チームのメンテナンス等を挙げています。多くの病院（施設）・在宅チームでは毎日のようにカンファレンスを通じて多職種連携が行われています。著者は、カンファレンスこそ、それぞれの専門職の強みを生かす場所であり、連携・協働することで相乗効果を体験することになると述べています。そして、この体験の積み重ねがチームの成長を生み出し、質の高いケアにつながるとしています。さらに、このマネジメントにはファシリテーション技術が重要で、チーム作りとしてコンサルテーション型チームが有効であることもわかりやすく

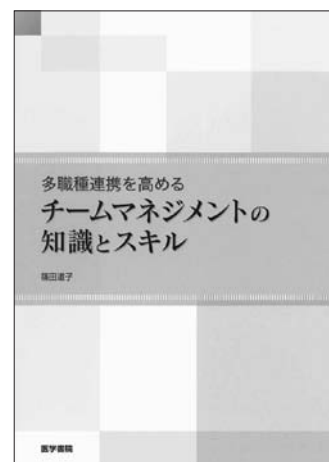
説明しています。ますます注目される多職種チーム作りにおいて、本書は臨床現場で役立つと思います。

■質の高いチームを作るためには、専門職連携教育（IPE）が必要である

専門知識を持っている人や臨床経験豊富な人が、必ずしも質の高いチームを作れるとは限りません。臨床現場では、よくマニュアルや手順を作ってがんばっていますが、なかなか現場のチーム医療がうまくいかないことが多いのではないのでしょうか。

超高齢社会を迎え、病院では高齢者が入院患者の半数以上を占めています。臨床の現場では、排尿障害を有する方が6割以上あり、少しでも排尿障害を改善させて在宅・施設へとつなげていきたいと考えています。著者は、チームが1つのまとまりとして機能するためには職種の壁を乗り越えた専門職連携教育（Interprofessional education：IPE）が有効であり、そのツールとしてケースメソッド教育を取り入れることを勧めています。私は、臨床現場での排尿ケアについて、マニュアルの作成や研修を行っていますが、さらなる発展と飛躍のためにこのIPEを演習・事例として導入したいと考えています。

本書は、医療介護福祉分野でのチームマネジメントが体系的に平易に書かれており、とても理解しやすいです。チームマネジメントで悩み壁にぶつかっているとき、本書は実践的でさまざまな解決手法の提言があり、現場で本当に役立つ指南書にもなっています。読後感として、あらためてチーム医療の良さを発見した思いです。



B5 頁128 2011年
定価 2,520 円(本体 2,400 円+税 5%)
ISBN978-4-260-01347-5 医学書院刊